

死生学・実践宗教学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
死生学特論Ⅰ	宗教心理学	2	高橋 原	1学期	水	3	1	対応科目なし
死生学特論Ⅱ	スピリチュアリティと死生観	2	高橋 原	2学期	水	3	2	対応科目なし
死生学特論Ⅲ	死とともに生きることを学ぶ	2	竹之内 裕文	集中(2学期)			3	対応科目なし
実践宗教学特論Ⅰ	スピリチュアルケア	2	谷山 洋三	1学期	月	2	5	対応科目なし
実践宗教学特論Ⅱ	宗教的ケア	2	谷山 洋三	2学期	月	2	6	対応科目なし
実践宗教学特論Ⅲ	死生学文献講読	2	高橋 原、大村 哲夫	1学期	水	5	7	対応科目なし
実践宗教学特論Ⅳ	実践宗教学試験～宗教者によるケア実践	2	高橋 原、大村 哲夫	2学期	水	5	8	対応科目なし
応用死生学研究実習Ⅰ	スピリチュアルケア実習	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	1学期	木	1	9	対応科目なし
応用死生学研究実習Ⅱ	スピリチュアルケア実習	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	2学期	木	1	10	対応科目なし
応用死生学研究実習Ⅲ	スピリチュアルケア実習内容の指導（振り返り）	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	1学期	木	2	11	対応科目なし
応用死生学研究実習Ⅳ	スピリチュアルケア実習内容の指導（振り返り）	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	2学期	木	2	12	対応科目なし

科目名：死生学特論 I / Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：高橋 原 (教授)

講義コード：LM13302, **科目ナンバリング：**LGH-RES610J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

宗教心理学

2. Course Title (授業題目)：

Psychology of Religion

3. 授業の目的と概要：

W・ジェイムズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な心理学者たちの議論を踏まえて、トランスパーソナル心理学などへの展開も視野に収める。また、キリスト教世界における回心体験やエクソシズム、吉本内観など日本の宗教的心理療法の事例をとりあげながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。

4. 学習の到達目標：

心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、宗教が人間心理に及ぼす影響を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション 人間の心と宗教
- 第2回：回心と意識変容(1) 近代アメリカの宗教事情と初期の回心研究
- 第3回：初期の日本の宗教学と回心研究
- 第4回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1) 健全な心と病める魂
- 第5回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2) 潜在意識仮説とブラグマティズム
- 第6回：フロイトの宗教論(1) 前史：メスメリズムと催眠術
- 第7回：フロイトの宗教論(2) 抑圧理論と宗教論
- 第8回：悪魔祓と原始的的心理療法について
- 第9回：ユングの宗教論(1) コンプレックスと連想実験
- 第10回：ユングの宗教論(2) イメージとヴィジョン
- 第11回：ユングの宗教論(3) 神話と意識の進化
- 第12回：トランスパーソナル心理学と宗教(1) ライフサイクル論と宗教意識
- 第13回：トランスパーソナル心理学と宗教(2) 意識変容と宗教
- 第14回：宗教から心理療法へ 吉本内観を例に
- 第15回：論点振り返り 人間心理と宗教体験

以上の大筋に添って、死生学的観点から考察を加える。

6. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

特に指定しない。

8. 授業時間外学習：

配布資料を熟読し、理解を深める。

9. その他：なし

毎回授業内で課題を出すのでミニットペーパーで回答すること。

科目名：死生学特論Ⅱ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：高橋 原 (教授)

講義コード：LM23302, **科目ナンバリング：**LGH-RES611J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

スピリチュアリティと死生観

2. Course Title (授業題目)：

Spirituality and View of Death and Life

3. 授業の目的と概要：

世界保健機関における健康定義の議論や、鈴木大拙、C・G・ユング、キューブラ＝ロスなどを参考に、医学や心理学の領域で蓄積されてきた死生観とスピリチュアリティについての多様な見解を紹介しながら考察する。具体的な事象への応用としては、お迎え現象、臨死体験、修行の心理などの他、遠藤周作やル＝グウィンなどの文学作品を取り上げて検討する。

4. 学習の到達目標：

スピリチュアリティと宗教という視点から、人間の生と死について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション スピリチュアリティとは何か
- 第2回：宗教とスピリチュアリティ
- 第3回：世界保健機関の健康定義とスピリチュアリティ
- 第4回：鈴木大拙『日本的霊性』とスピリチュアリティ
- 第5回：C・G・ユングとスピリチュアリティ
- 第6回：キューブラ＝ロスの臨死体験論とスピリチュアリティ
- 第7回：チベット死者の書とスピリチュアリティ
- 第8回：お迎え現象と日本人のスピリチュアリティ
- 第9回：心霊現象とスピリチュアリティ
- 第10回：修行とスピリチュアリティ
- 第11回：近代日本の知識人とスピリチュアリティ(1)明治期
- 第12回：近代日本の知識人とスピリチュアリティ(2)大正期
- 第13回：文学作品に見るスピリチュアリティ(1)遠藤周作
- 第14回：文学作品に見るスピリチュアリティ(2)ル＝グウィン
- 第15回：論点振り返り スピリチュアリティと現代

6. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーと期末レポートによる。

7. 教科書および参考書：

窪寺敏之『スピリチュアリティ学概説』三輪書店、2008年、他、適宜授業内で指示する。

8. 授業時間外学習：

テキスト、配布資料を熟読する。

9. その他：なし

毎回授業内で課題を与えるのでミニットペーパーにより回答すること。

科目名：死生学特論Ⅲ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)， **単位数：**2

担当教員：竹之内 裕文（非常勤講師）

講義コード：LM98816, **科目ナンバリング：**LGH-RES612J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

死とともに生きることを学ぶ

2. Course Title (授業題目)：

cultivating wisdom of mortal human life

3. 授業の目的と概要：

なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援ア、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

4. 学習の到達目標：

死生学の基本概念を学び、現代生活における生と死の問題について理解を深める。

①対話スタイルで進められる講義を通して、対話的探究の楽しさと可能性を身をもって学び、対話の精神と技法を習得する。

②テキストや他の受講者との対話を通して、死とともに生きる自分なりの知恵を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、導入としてのもしバナゲーム
- 2) テキストをめぐる対話① ある死別の経験から（序章）
- 3) テキストをめぐる対話② 重度障害者自立ホームから（第1章）
- 4) 死生学カフェ①
- 5) テキストをめぐる対話③ 在宅緩和ケアの現場から（第2章）
- 6) テキストをめぐる対話④ 死者と共にある農村との出会い（第3章）
- 7) テキストをめぐる対話⑤ いのちに気づかって生き、死ぬ（第4章）
- 8) 死生学カフェ②
- 9) テキストをめぐる対話⑥ 共に生きること、本当に生きること（第5章）
- 10) テキストをめぐる対話⑦ 森と湖の国の「福祉」（第6章）
- 11) テキストをめぐる対話⑧ ホスピス運動の源流を辿る（第7章）
- 12) 死生学カフェ③
- 13) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話（終章）
- 14) 死生学カフェ④
- 15) 死生学カフェ⑤

6. 成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. 「テキストをめぐる対話」（全8回）の準備作業として、受講者は各回の講義冒頭にフィードバックシート（テキスト各章の要旨、着眼・疑問・意見、希望する対話テーマを記載する）を提出します。これをすべて遺漏なく提出すると、10点満点×8回＝80点のポイントを獲得します。

2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり5点を加算します。

7. 教科書および参考書：

竹之内裕文『死とともに生きることを学ぶ 死すべきものの哲学をもとめて』（ポラーノ出版、2019年6月刊行予定）をテキストとして使用します。

8. 授業時間外学習：

講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。

9. その他：なし

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェについては次の URL を参照ください。<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>

科目名：実践宗教学特論 I / Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三 (准教授)

講義コード：LM11204, **科目ナンバリング：**LGH-RES613J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

スピリチュアルケア

2. Course Title (授業題目)：

Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

窪寺俊之、村田久之、山崎章郎、伊藤高章などの理論に触れつつ、国内でのスピリチュアルケア理解とその多様性、課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。

4. 学習の到達目標：

公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：チャプレンとビハラー僧

第3回：「臨床宗教師」の誕生

第4回：生活の中にある心のケア

第5回：スピリチュアルペイン

第6回：スピリチュアルな探求

第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア

第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア

第9回：宗教的資源の活用

第10回：宗教的ケア

第11回：臨床宗教師の可能性

第12回：臨床宗教師の資質

第13回：ワークショップ「死の体験」

第14回：ワークショップ振り返り

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、平常点・討論への参加等[50%]

7. 教科書および参考書：

教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

参考書：鎌田東二編『講座スピリチュアル学第1巻』ビーイング・ネット・プレス、2014 年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

科目名：実践宗教学特論Ⅱ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三 (准教授)

講義コード：LM21202, **科目ナンバリング：**LGH-RES614J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

宗教的ケア

2. Course Title (授業題目)：

Religious Care

3. 授業の目的と概要：

臨床宗教師のモデルである欧米のチャプレン制度とその源泉となる思想を概観し、軍隊、刑務所、学校、病院などでの実践とその意義を考察する。国内での臨床宗教師の活動、寺社教会での宗教的資源を活用したケアの可能性も検討する。また、体験的ワークによりケア実態の理解を深める。

4. 学習の到達目標：

臨床宗教師が提供する宗教的ケアについて、その理念と方法を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：スピリチュアルケアの歴史

第3回：宗教、哲学、心理学の視点

第4回：社会学、健康学の視点

第5回：ペインとケア

第6回：ケアの方法

第7回：ケーススタディ

第8回：ケア提供者の資質

第9回：欧米のチャプレン制度（1）軍隊

第10回：欧米のチャプレン制度（2）病院

第11回：欧米のチャプレン制度（3）刑務所、学校

第12回：日本での宗教的ケアの可能性

第13回：ワークショップ「ペットロスと読経」

第14回：ワークショップ振り返り

第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、平常点・討論への参加等[50%]

7. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店、2008年

参考書：葛西健太ほか編『ケアとしての宗教』明石書店、2013年

谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

実践宗教学特論Ⅰを履修済みであることが望ましい。

科目名：実践宗教学特論Ⅲ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 原、大村 哲夫（教授、准教授）

講義コード：LM13504， 科目ナンバリング：LGH-RES615J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

死生学文献講読

2. Course Title（授業題目）：

Reading of Literature on Death and Life Studies

3. 授業の目的と概要：

グリーフケアに関する文献を読み、現代人の生活の諸局面に現われる悲嘆とそのケアの方法と問題点について基礎的な知識を得る。

4. 学習の到達目標：

悲嘆を抱える人々に対してどのような方法で接することがケアという観点から有効であるのか、事例を踏まえて理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) イントロダクション グリーフケアとは何か？
- (2) 実践編 1 災害時のグリーフケア
- (3) 実践編 2 遺族会とグリーフケア
- (4) 実践編 3 日本社会の伝統的なグリーフケア
- (5) 理論編 1 グリーフケアの基盤としてのスピリチュアルケア
- (6) 理論編 2 臨床心理学における悲嘆
- (7) 理論編 3 グリーフケア研究の動向
- (8) 人材養成編 1 グリーフケア提供者を目指す人たち
- (9) 人材養成編 2 臨床宗教師の養成
- (10) グリーフケアと宗教 1
- (11) グリーフケアと宗教 2
- (12) グリーフケアと宗教 3
- (13) グリーフケアと宗教 4
- (14) グリーフケアと宗教 5
- (15) まとめと展望

6. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、授業への参加態度により総合的に判断する。

7. 教科書および参考書：

高木慶子編『グリーフケア入門』勁草書房 2012

8. 授業時間外学習：

テキストの指定範囲を授業前に熟読し、自分の考えをまとめておく。

9. その他：なし

科目名：実践宗教学特論Ⅳ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：高橋 原、大村 哲夫（教授、准教授）

講義コード：LM23505， **科目ナンバリング：**LGH-RES616J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

実践宗教学試論～宗教者によるケア実践

2. Course Title (授業題目)：

Practice of care by religious professionals

3. 授業の目的と概要：

宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者を招く回があります。各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師の理念
2. グリーフケアと宗教
3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

6. 成績評価方法：

出席回数、毎回提出のミニットペーパーの内容による。

7. 教科書および参考書：

特に指定しないが授業内で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献等で学習を深める。

9. その他：なし

科目名：応用死生学研究実習Ⅰ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫（教授、准教授）

講義コード：LM14101， **科目ナンバリング：**LGH-RES617J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：

Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

死生学的課題にとりくむ現場を参与観察するとともに、スピリチュアルケア実践の実習を行い、実習先・ケアチームの状況理解、倫理的課題、ケア対象者のニーズと対応、ケア提供者の責任と実践力を身につける。実習報告会（会話記録検討会など）では、他の履修者の実習内容から、実践の多様性とフレキシビリティを学びつつ、自己課題に向き合い、ケア提供者としての自己の適性を明らかにする。

4. 学習の到達目標：

スピリチュアルケアの現場に身を置くことで、死生学的課題にとりくむ実践力を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：学習契約
- 第2回：実習先の決定・書類締結
- 第3回：実習訪問（1）実習先の状況理解
- 第4回：実習訪問（2）チームの状況理解
- 第5回：実習訪問（3）職掌の理解
- 第6回：実習訪問（4）倫理的課題
- 第7回：実践報告会（1）実習現場特性と実習内容の分かち合い
- 第8回：実習訪問（5）参与観察報告1
- 第9回：実習訪問（6）ケア提供者の責任
- 第10回：実習訪問（7）ケア対象者のニーズ
- 第11回：実習訪問（8）ケア提供者の対応
- 第12回：実践報告会（2）実習現場特性と実習内容の分かち合い
- 第13回：実習訪問（9）参与観察報告2
- 第14回：実習訪問（10）ケア提供者の倫理
- 第15回：まとめ・自己評価

6. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010 年

参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習Ⅲ、死生学特論Ⅰ（高橋原）、実践宗教学特論Ⅰ（谷山洋三）、人文社会科学研究（前期、大村哲夫）を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅱ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫（教授、准教授）

講義コード：LM24101, **科目ナンバリング：**LGH-RES618J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：

Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

現場での参与観察・実習に基づき、ケーススタディによるレポート（会話記録など）を作成・発表し、職掌の理解、倫理的課題の把握と分析、多職種チームアプローチの方法と意義、ケア提供者の責任と倫理について、実践的な視点から考察する。実習報告会（会話記録検討会など）では、他の履修者の実践内容に基づいて、自己の実践性について相互評価を行う。

4. 学習の到達目標：

死生学的課題にとりくむ現場における自らの役割を理解し、体系的に論じる力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：学習契約、実習先の決定・書類締結
- 第2回：実習訪問（1）実習先の状況理解
- 第3回：実習訪問（2）職掌の理解
- 第4回：実習訪問（3）倫理的課題
- 第5回：実践報告会（1）実習内容の分析
- 第6回：実習訪問（4）参与観察報告1
- 第7回：実習訪問（5）チームアプローチ
- 第8回：実習訪問（6）多職種間コミュニケーション
- 第9回：実践報告会（2）実習内容の分析と批判的検討
- 第10回：実習訪問（7）参与観察報告2
- 第11回：実習訪問（8）情報共有
- 第12回：実践報告会（3）活動の倫理と責任についての分析
- 第13回：実習訪問（9）ケア提供者の倫理
- 第14回：実習訪問（10）ケア提供者の責任
- 第15回：まとめ・自己評価・実習報告レポート

6. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010 年
参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習Ⅰ、応用死生学研究実習Ⅲ、死生学特論Ⅰ（高橋原）、実践宗教学特論Ⅰ（谷山洋三）、人文社会科学研究（前期、大村哲夫）を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習Ⅳ、死生学特論Ⅱ（高橋原）、実践宗教学特論Ⅱ（谷山洋三）、人文社会科学研究（後期、大村哲夫）を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅲ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫（教授、准教授）

講義コード：LM14204, **科目ナンバリング：**LGH-RES619J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

スピリチュアルケア実習内容の指導（振り返り）

2. Course Title (授業題目)：

Supervision for the Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

応用死生学研究実習Ⅰの実習での経験に基づいて、グループワークを通して、傾聴の姿勢・態度、言語的・非言語的コミュニケーション能力、ケア対象者理解について自己検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、実践力を養う。

4. 学習の到達目標：

実習での経験に基づいてスピリチュアルケア提供者としてのアイデンティティ確立を目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：施設、活動オリエンテーション

第3回：ケア倫理オリエンテーション

第4回：学習契約

第5回：傾聴の姿勢・態度

第6回：ロールプレイ（1）傾聴の姿勢・態度の確認

第7回：会話記録検討（1）感情表現

第8回：会話記録検討（2）言語的コミュニケーション

第9回：会話記録検討（3）非言語的コミュニケーション

第10回：総合ディスカッション

第11回：会話記録検討（4）ケア対象者理解

第12回：会話記録検討（5）ケア提供者の傾向把握

第13回：会話記録検討（6）感情表現によるケア

第14回：ロールプレイ（2）傾聴の姿勢・態度の変化確認

6. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010 年

参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習Ⅰ、死生学特論Ⅰ（高橋原）、実践宗教学特論Ⅰ（谷山洋三）、人文社会科学研究（前期、大村哲夫）を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅳ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫（教授、准教授）

講義コード：LM24206， 科目ナンバリング：LGH-RES620J， 使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

スピリチュアルケア実習内容の指導（振り返り）

2. Course Title（授業題目）：

Supervision for the Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

応用死生学研究実習Ⅱの実習に基づいて、感情の言語化、自分史の振り返り、自己開示・内省のワークショップを通して、自己のケア能力・姿勢・態度を検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、高度な実践力を養う。

4. 学習の到達目標：

実習での経験に基づいてスピリチュアルケア専門職としての倫理を理解し実現力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：施設、活動オリエンテーション

第3回：ケア倫理オリエンテーション

第4回：学習契約

第5回：ロールプレイ 傾聴の姿勢・態度の確認

第6回：会話記録検討（1）感情表現によるケア

第7回：会話記録検討（2）感情の言語化

第8回：会話記録検討（3）言語化によるケア

第9回：総合ディスカッション

第10回：生育歴セミナー（1）自分史を振り返る

第11回：生育歴セミナー（2）自己開示

第12回：会話記録検討（4）自己内省

第13回：会話記録検討（5）「傷ついた癒し人」

第14回：会話記録検討（6）セルフケア

第15回：学習成果報告

6. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

7. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年

参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する。

9. その他：なし

履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習Ⅰ、応用死生学研究実習Ⅲ、死生学特論Ⅰ（高橋原）、実践宗教学特論Ⅰ（谷山洋三）、人文社会科学研究（前期、大村哲夫）を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習Ⅱ、死生学特論Ⅱ（高橋原）、実践宗教学特論Ⅱ（谷山洋三）、人文社会科学研究（後期、大村哲夫）を履修すること。